

1 耐震診断結果について

耐震診断は、震度6強から7程度の大規模な地震に対して倒壊又は崩壊する危険性を評価するものです。

震度5強程度の中規模地震に対しては、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限り、損傷が生じるおそれは少なく、倒壊するおそれはありません。

2 耐震性の確認方法

耐震性は耐震診断結果により、下記3区分に分類されます。

区分	耐震性の有無
I. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	耐震性が不足している
II. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	
III. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。	耐震性がある

【耐震性の確認手順】 ※次頁に確認手順を図示していますので、併せてご覧ください。

次のA, Bを用い、以下の手順で確認します。

- ・ A…「要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断結果」もしくは、「要安全確認計画記載建築物の耐震診断結果」
- ・ B…附表「耐震診断の方法と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性」

手順1：耐震性を確認したい建築物の耐震診断の方法の番号を確認します。

手順2：(B)の表の中から同じ番号を確認し、同じ行の数式と、(A)の「安全性の評価の結果」の値を確認します。

手順3：該当する列の上部で耐震性の符号が確認できます。

手順4：耐震性の符号から安全性の評価を確認します。

※各コメントは、「要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断結果」、「要安全確認計画記載建築物の耐震診断結果」とも共通です。

耐震診断結果の数値の中で最少となる数値（「耐震診断の方法の名称」が7、8、22の場合は、 $I_{S0}=0.8$ 、9～14-2、23の場合は、 $I_{S0}=0.6$ として、 I_S/I_{S0} を計算）を表記しています。

(A) 要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断結果

一つの敷地に対象建築物が複数ある場合は、棟ごとに記載します。

No.	建築物の名称	建築物の所在地 (住居表示)	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果				安全性の評価 (I, II, III)	耐震改修等の予定		備考
					I_S	I_S/I_{S0}	$C_{TU} \cdot S_D$	I_S/I_{S0}		内容	実施時期	
1	〇〇〇場	立川市■町1-1-1	遊技場	6 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	I_S	0.25	q	0.61	I			
				14-2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	I_S/I_{S0}	1.038	$C_{TU} \cdot S_D$	0.650	III		$I_S=0.623$	
2	立川〇〇	立川市××町1-1-1	集会場	11 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	I_S/I_{S0}	0.33	$C_{TU} \cdot S_D$	0.15	I	検討中	$I_S=0.20$	
			7階	14-1 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	I_S/I_{S0}	0.78	$C_{TU} \cdot S_D$	0.47	II		$I_S=0.47$	

一つの棟でも構造種別が分かれるなど、診断方法が複数ある場合は、それぞれ記載します。

手順2

手順1から3により得られた評価を示しています。

「構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価」で I_S/I_{S0} を計算している場合、 I_S を記載しています。

(B) 「附表」 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	手順4	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		I	II	III
11 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)		$I_S/I_{S0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_S/I_{S0}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
12 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1983年版)		$I_S/I_{S0} < 0.5$	左右以外の場合	
13-1 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版)		$I_S/I_{S0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	

手順1：耐震性を確認したい建築物の耐震診断の方法の番号を確認します。
 手順2：(B)の表の中から同じ番号を確認し、同じ行の数式と、(A)の「安全性の評価の結果」の値を確認します。
 手順3：該当する列の上部で耐震性の符号が確認できます。
 手順4：耐震性の符号から安全性の評価を確認します。

- 安全性の評価については下記の通り。
- I. 大規模の地震※の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
 - II. 大規模の地震※の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
 - III. 大規模の地震※の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。
- ※ 震度6強から7に達する程度の大規模の地震